

松下記念図書館開館50年企画の実施

あさおちかこ
浅尾千夏子

(理工学メディアセンター主任)

1 はじめに

松下記念図書館（理工学メディアセンターの本館）は、松下電器産業（現パナソニック）株式会社の創業者である松下幸之助氏からの寄付により1971年に建設され、2021年10月に開館50年を迎えた。



図1 松下記念図書館

現在の理工学部がある矢上キャンパスは、1972年4月に開設されたが、図書館はそれより半年程先立ちサービスを開始している。地上3階建てのレンガ色の建物は、キャンパスの入口に位置し、延べ床面積2,300m²、閲覧席270席、書架収蔵力は88,000冊で、当時の単学部図書館としては国内屈指の規模であった。また、開館当初より、その前身である藤山工業図書館の理念を受け継ぎ、学内のみならず学外の理工学系の研究者や技術者にも広く門戸を開き、現在に至るまで運営されている。

理工学メディアセンター（以下「当館」とする）では、この松下記念図書館の開館50年を記念して、動画コンテンツ（スライドショー）の制作や館内でのパネル展示、記念誌刊行等の企画を実施した。以下、各企画の内容について記載する。

2 企画の立上げと作業スケジュール

2021年1月、コロナ禍の在宅勤務時間を活用して、自宅からでもアクセス可能な動画コンテンツを制作

するアイデアがいくつか生まれた。そのうちのひとつが、松下記念図書館開館50年を記念したスライドショー「写真が語る理工学メディアセンターのあゆみ」の制作であった。この動画コンテンツの制作を皮切りに、遅まきながら記念企画が動き出すこととなった。しかしすでにこの時点で、2021年度の予算申請は終了しており、必然的に経常費の範囲内で実現可能、かつ2021年度内に完了することを前提に、いくつかを検討していくこととなった。

表1 開館50年記念企画作業スケジュール

年 月	作業日程
2021 1	スライドショー：企画立上げ
6	スライドショー：試作品完成
9	パネル展示：準備開始 記念誌：編集委員会立上げ
10	スライドショー：学内限定公開開始（4日） スライドショー：一般向け公開開始（12日） Webサイト：記念企画ページ公開（12日） パネル展示：創想館1階にて展示開始（18日） Webサイト：バーチャル背景の公開（20日）
11	記念誌：編集作業、印刷会社決定
2022 1	記念誌：初稿提出、デザイン検討
3	記念誌：編集作業終了（18日） 記念誌：刊行（31日） パネル展示：展示期間終了（31日）
4	記念誌：関係機関に送付完了（11日） 記念誌：PDF版をΣstarに搭載（14日）

3 動画コンテンツの作成

スライドショー「写真が語る理工学メディアセンターのあゆみ」は、当館が『慶應義塾大学理工学部75年史』（2014年刊行）の写真デジタル化を担当していた経緯から、数多くのキャンパス記録写真を保管しており、これらの写真をつなぎ合わせ、これまでの歴史を振り返ることをテーマとして作成することが決定した。具体的な作業はスタッフ2名が中心となり、デジタル化した膨大な写真の中から松下記念図書館の建設・開館のテーマに沿ったものをピックアップするとともに、特徴的な出来事を簡潔な年表形式でまとめた。

構成は4つのチャプターに分け、第1章はプロローグ「1939年～1971年工学部図書館誕生への軌跡」として最初の工学部図書館誕生から小金井時代までを収録、第2章は主題である「1971年～1999年松下記念図書館の時代」、第3章は「1999年～創想館竣工から現在」とし、2000年に竣工しその一部に当館が延伸した創想館でのサービス開始までをまとめた。第4章はエンディングとして、松下記念図書館内のフロアや施設の移り変わりを紹介する形とした。

スライドショーの試作品は6月に完成したが、部署内にて協議し、全体的な写真や文字レイアウトの修正、文字フォントや背景デザインの改訂、著作権フリーBGMを追加する作業を進めた。またこれと並行して、写真に顔が写っている方への掲載許諾依頼、許諾が取れない場合は該当写真にぼかしを入れる等の最終的な公開準備作業を順次行った。

コンテンツの作成・公開方法については、パワーポイントのスライドショーを動画変換したものを大学管理化のクラウド領域に置き、10月4日の松下記念図書館の開館記念日に、当館のWebサイトにて学内限定公開を開始した。その後、動画が30分を超えた長さであったことから、フルバージョンの他に、章ごとのショートバージョンを追加で作成し、10月12日より学内限定を解除し、一般公開する運びとなった¹⁾。



図2 スライドショー画面（エンディング部分）

4 館内でのパネル展示、Webページの公開

動画コンテンツ制作に続く開館50年記念企画第2弾として、2021年10月18日から2022年3月31日までの期間、パネル展示「開館50年記念 写真でたどる理工学メディアセンターのあゆみ」を開催した。この展示は藤山記念図書館から現在までの写真を60枚程のパネルに起こし、理工学部の図書館の歴史が一

目で見渡せるよう、創想館1階のレンガ壁を利用して年代順に展示した。また、写真パネルのほかにも、松下記念図書館竣工式のテープカットで実際に使用した鉢も併せて展示した。



図3 パネル展示の様子

また、スライドショーの公開と館内でのパネル展示開始に合わせ、開館50年記念企画Webページを立ち上げた²⁾。Webページには、各企画の紹介に加え、館内写真を使ったバーチャル背景用画像（オンライン授業やWeb会議の背景として使用する画像）を作成し、併せて掲載した。

5 記念誌の刊行

記念誌の刊行は、企画の最後を飾るものとして、10月にスタッフ5名からなる記念誌編集委員会を立ち上げ、2022年3月末の刊行を目指して準備を進めた。年表に写真を組み込みながら歴史を紹介する50ページ程度の小冊子とすることを大まかな枠組みとし、構成はスライドショーを踏襲しつつも、それには掲載されていない新たな写真を発掘する作業のほか、年表に掲載する項目の事実や典拠確認、写真のキャプション付与、他部署所蔵写真の掲載許諾依頼等を改めて行なった。

また、年表を補完するものとして、エピソードと題した400文字前後のコラム計10本を収録した。コラムは、伊藤公平塾長をはじめとする理工学部教員の方々、加えて長くこの図書館の運営に携わって来た職員の方々に執筆を依頼し、快諾を頂いた。コラムは、教員の方々からは学生時代に資料や閲覧席を利用して来た思い出、研究者となってからの電子ジャーナル活用など利用の変化について、職員の方々からは当時の取り組みや理工学分野ならではの資料紹介など様々な視点から執筆を頂いた。いずれもその時の空気が感じられ、その時代にタイムスリップした

かのような感覚を味わうことが出来る。

加えて巻末には「資料編」として、当館が実施してきた企画展示やイベントをまとめたページのほか、統計、館長・所長一覧、参考文献をまとめた。

記念誌の表紙・年表のデザインは、手に取った方に興味を持って見ていただけるよう、かつ一見して歴史が分かるものとなるように、心を砕いた。写真が全頁に配置されていることからカラー刷りとし、サイズは手に取りやすいA5正方形に決定した。表紙は写真を使ったスタイリッシュなものに、年表は流れる川のようなデザインとし、藤原工業大学と藤山工業図書館を起源とする歴史が合流していく様を視覚化出来るよう、印刷会社と繰り返し検討を重ねた。これらの編集作業を経て、2022年1月に初稿を印刷会社に提出、その後4回の校正を重ね、3月末に無事500部を刊行した。完成した記念誌は、理工学部各教員のほか、関係部署や交流のある機関に送付した。その後、ΣStar（慶應義塾大学理工学メディアセンター機関リポジトリ）でもPDF版を公開している³⁾。

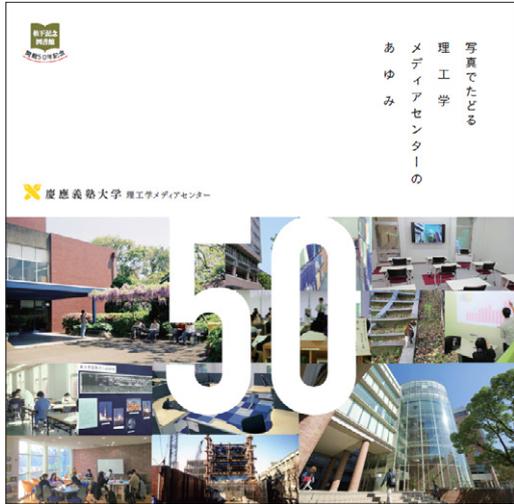


図4 開館50年記念誌表紙

6 おわりに

走りながら進めていく突貫工事作業ではあったものの、記念の年にしかチャンスがない、こうした企画を無事に実施出来たことを嬉しく思う。当館に着任して3年未満のスタッフを中心に取り組んだため、制作に際しては現在参照可能な業務記録や参考文献に多くを頼らざるを得なかった。松下記念図書館開館当時を知る教職員の方々からご助言を承る機会と

余裕がなかったことが非常に悔やまれる。企画終了後の現在も、追記・修正したい箇所が頭の中を駆け巡るが、致し方ない。それにも関わらず、スライドショー公開後や記念誌刊行後には、元メディアセンター職員の方や関係者の皆様より編集作業を労う温かいお言葉を頂戴し、この企画に携わった者としては感無量であった。今回実施した企画を通じて、経験不足ながらもこれまでの歴史をたどることで、理工学部の図書館が歩んだ歴史とともに、この図書館を支えてきた図書館員の志と、図書館への愛情を垣間見ることが出来たことは、何よりの成果であった。最後に、松下記念図書館開館50年企画実施にあたって、理工学部教員および多くの職員、元職員の方にご協力いただいたことをこの場を借りて御礼申し上げます。

注

- 1) スライドショー「写真が語る理工学メディアセンターのあゆみ」
<https://libguides.lib.keio.ac.jp/c.php?g=943476&p=6832768#s-lg-box-wrapper-25672702>
- 2) 松下記念図書館開館50年記念企画ページ
<https://libguides.lib.keio.ac.jp/historyofrikogakumediacycenter>
- 3) 50年記念誌『写真でたどる理工学メディアセンターのあゆみ』
<http://iroha.scitech.lib.keio.ac.jp:8080/sigma/handle/10721/3313>